

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2021年6月 [第94号]

2021年4月

マラウイ・パロンベ県の初等学校で

教室建設に使うSSBの製作が始まりました



マラウイで主な建設資材として使用されている焼成レンガは、燃料の大径木が希少となって、その価格の上昇、そして遠方からの運搬が負担となっています。環境保全の観点でも問題です。

パロンベ県行政当局は、公共施設建設では焼成レンガの使用を禁止。

SSB (Stabilized Soil Brick=土壌安定化レンガ) または砂セメントブロックを推奨しています。

活動の方向性	コロナ禍後の新しい活動形態	永岡 宏昌
情報	マラウイにおける 新型コロナウイルス(Covid-19)ワクチンの動き	
ひと	マラウイ人スタッフ2人と専門家12人を紹介します	宇野 由起信
ひと	日本人スタッフの自己紹介	宇野 由起信
活動報告	マラウイでの活動—2021年1月～5月—	
国内	2021年度年次総会をオンラインで開催しました	
フォト・レポート	SSB(土壌安定化レンガ)の作り方	宇野 由起信
事務局から		

コロナ禍後の新しい活動形態

代表理事 永岡 宏昌

社会開発の現場では、事業の主旨とは異なる発言・約束事・行為が行なわれて、事業から派生する副次的利益への住民の期待が膨らみ、事業が歪められてしまう心配があります。また、スタッフ自身が、現場で副次的利益を追求する事態も起こりかねません。

当会では、1998年に開始したケニアでの活動から、現在のマラウイでの活動まで、現地では他の団体と提携せずに、日本人スタッフ・インターンが現場活動から団体運営まで担ってきました。そして、現地でスタッフを公募し、地域社会に貢献する意欲のある若者を面接で採用し、現場での日本人スタッフとの実務訓練を通してスタッフの質を高め、活動の透明度(内部で「見える」)を高めていくことを目指してきました。現場での住民への研修では、現地の専門家と研修手順書を作成します。専門家は手順書どおりの講義・実演を行ない、その研修に日本人スタッフ・インターンも参加して、内容を確認してきました。

今回のコロナ禍で、2020年4月に日本人スタッフがマラウイを離れ、再入国の目途がない中で、2021年2月から初等学校での保護者参加による教室建設事業を再開しました。この状況で活動の透明度を高めるために、手順書の改善に取り組みました。研修だけでなく、学校で実施する会議についても、

まず、マラウイ人スタッフが原案を作成し、日本人スタッフが指摘・追記・訂正を繰り返す作業を行ないました。この手順書では、最初に事業の主旨を確認します。学校関係者の誰と、どのように会議の準備をするか、会議の持ち物・配布物、コロナ感染対策、当日の直前打合せ、そして会議の流れと発言内容を明確にしました。その作業を通して、事業全般とそれぞれの会議への具体的な理解がお互いに深まりました。

学校での会議では、当会の担当者として主に発言・説明し、参加者の議論を促すスタッフのほか、タブレットを持つ別のスタッフがあります。日本とインターネットで接続し、会議でのチェワ語(マラウイの国語)の発言・説明を英語に同時通訳することで、日本からも会議に同時参加できるようになりました。

会議において、先行事業の倉庫建設を担った建設リーダーが、「日本人は次の教室建設では給与を支払うと約束した」と言って、無償参加を拒絶した学校があります。マラウイ人スタッフの適切な説明と時間をかけた説得で、無償参加に気持ちを切り替える、という成果も出てきました。

コロナ禍後に日本人スタッフがマラウイに戻っても、この新しい活動形態は活用していると考えています。

情報

マラウイにおける新型コロナウイルス(Covid-19)ワクチンの動き

～2021年6月8日

3月5日

新型コロナウイルス(Covid-19)ワクチン(アストラゼネカ製)36万回分が到着しました。COVAX*(コバックス。COVID-19 Vaccines Global Access)に基づいた供給で、140万回分の初回(次は5月下旬の予定)。

*ワクチンを共同購入し、途上国などに分配する枠組み。2020年、WHO(世界保健機構)、CEPI(感染症流行対策イノベーション連合)、Gavi(ギャビ)アライアンス(ワクチンと予防接種のための世界同盟から改称)がUNICEF調達、輸送、物流、保管を担うと主導して発足。

3月11日

チャクウェラ大統領が、東部の都市、ゾンバでの公開式典でワクチンを接種しました。

3月26日

アフリカ連合(AU)から、アストラゼネカ製ワクチン102,000回分を取得しました。

4月

大統領は、Covid-19資金の横領疑惑で労働大臣を罷免しました。大臣が南アフリカへの旅費に約60万マラウイクワチャ(MWK)(約8万円)を転用したことが、Covid関連の支出の監査で判明。「大臣が資金を返済するまで、お金が必要とされたときに、そこにはないことを意味する」と指摘しました。

5月19日

保健局は、AUから取得したアストラゼネカ製ワクチン16,443回分を焼却しました。有効期限は4月13日で、すべてを使用するのに日数が足りなかった、とのこと。人口約1,800万人のマラウイにおいて、この時点での感染者数は34,232人、亡くなった人は1,153人。ワクチンを接種した人は33万人。COVAXの1回目、AU分のほか、インドから直接、アストラゼネカ製ワクチン5万回分を取得。インドは4月にワクチン輸出を停止しているため、今後の供給量が懸念されています。

6月1日

日本政府から、ユニセフを通じてマラウイに725,000米ドル(約5億7,400万MWK)のワクチン接種の取り組みへの支援が報道されました。機器、輸送、トレーニングによってコールドチェーン能力を向上させることで政府の接種活動を支援。

6月8日

6月4日に始まった、ワクチンの2回目の接種を受けたのは、6月7日と2日間で19人—うち2人は大統領とチリマ副大統領—だったことが明らかになりました。

出典: BBC News, Nyasa Times

マラウイ人スタッフ 2 人と専門家 12 人を紹介します

調整員 宇野 由起信

ロミゴウィ(パロンベ)事務所スタッフ

◆調整員助手

○ウィリアム(2019年10月～)

CanDo のオールラウンダー。適応能力が高く、現場業務やアドミン業務など幅広くサポートができ、かゆいところに手が届く。

○オネスマス(2019年12月～)

当会に勤務した最初からパソコンの扱いに慣れていた唯一のスタッフ。日本からの遠隔での事業運営の幅を広げている。

* ブランタイヤ事務所の主任調整員アンドリュースは会報 88 号、ミゴウィ事務所の調整員クリスティーナとチクンブツォは 87 号で紹介。

□専門家

建設専門家は ABC に分かれています。

A: 大学で建築を教える教員。事業計画・設計図・建設手順書などの作成。B、C を紹介。

B: 職業訓練校で建築を教える教員。座学研修での講師、高度な建設作業の指導。

C: 上級資格と現場経験を持つ職人。全ての現場建設作業への参加と指導。

◆建設 B

○カムツ(2019年9月～)

最近、職業訓練校から政府機関に所属が変わる。当会が契約した専門家で彼を知らない人はいないほどの有名なベテラン先生。

○カタンドウラ(2019年9月～)

ミロンガ職業訓練校教員。SSB の経験知識が豊富で「automatically」が口癖。髭を生やし、ダンディー。

○マチュウイラ(2019年9月～)

パロンベ県内のナミンジワ職業訓練校教員。事業地在住なこともあり、スケジュールに柔軟に対応してくれる。

○サイジ(2019年11月～)

トゥンブエ職業訓練校教員。口調が柔らかく、聞きやすい。若々しい先生。

◆建設 C

○ニヤムラ(2019年11月～)

レンガ工。他のレンガ工をまとめる、「頼れるお兄さん」的存在。技術も経験も豊富で、説明もわかりやすい。

○ズゼ(2020年1月～)

レンガ工。口下手でシャイだけど、仕事は確か。背中で見せるタイプ。笑い声は大きい。

○カリエカ(2020年1月～)

レンガ工。常に顔から優しさが溢れ出ている。SSB 作成の経験もあり、仕事が丁寧。

○コンドワーニ(2020年1月～)

レンガ工。他のレンガ工とは違う、ヤンチャなタイプ。仕事がある時は、隣の県から片道 2 時間以上かけて来る。

○マキナ(2020年2月～)

レンガ工。口数は少ないけど、日が落ちるまで最後まで保護者と作業をやり通す、粘り強い仕事ぶり。

◆学校保健

○ニヨニ(2020年2月～)

看護師。学校保健の研修手順書の準備段階でいろいろ助言をもらった。今後、現場での研修ファシリテーターとして期待している。

自己紹介 調整員 宇野 由起信



2016年1月、大学を休学してインターンとしてケニアに派遣され、8月まで CanDo の教室建設・補修に携わりました。関心のあった他の分野の活動に参加したあと日本に戻らず、12月に短期調整員として再派遣ということになりました。翌年4月に復学。

2018年3月に卒業し、調整員としてケニアに出発。ナイロビ事務所・宿舎を閉鎖する作業に参加し、閉じる直前に陸路でマラウイに向かいました。ブランタイヤ事務所の立ち上げと事業準備に約1年、最初の事業に1年2か月と計約2年間、現地に駐在し業務を行ないました。

○ムクワイラ(2020年8月～)

元医務官。その経歴から、行政関係者とのやり取りに関する助言を期待している。

○カフェラ(2020年8月～)

HIV/AIDS が専門の、現役のプログラムオフィサー。HIV/AIDS に関するマラウイの現状を把握している。その面での助言も期待している。

* 建設 A シルンプは会報 88 号で紹介。

* CanDo のマラウイ支部(慈善法人として登記)の理事はマラウイ人 2 人と永岡宏昌。理事ピーター・カタとムゾンディ・チランボは会報 87 号で紹介。

2020年4月に緊急帰国してから現在までは、実家の兵庫県で、リモートワークで事業に携わっています。

当会では、国際協力がじりたての学生時代から、社会開発の現場最前線で修行させてもらっています。これまで共に働いてきたケニア人、マラウイ人スタッフ、専門家、日本人スタッフ、インターン—周りの人に本当に恵まれてこれまで充実した濃い仕事に携われていることに感謝しています。ウィズ・コロナ時代の新しい事業運営を確立していけるよう試行錯誤しながら邁進していきたいと思っています。

マラウイでの活動—2021年1月～5月

□1月

○教室建設事業の協働について、県教育局長と県環境官、3 伝統首長、4 教育区教育官と合意しました。

□2月—2月10日、教室建設事業を開始—

○3 伝統首長、3 教育区教育官と合意。

○第1回学校会議(代表者を対象)を全候補校9校で開催しました。

○第2回(建設リーダー対象)を1校で開催。

□3月

○1 教育区教育官と合意。

○第2回学校会議を4校で開催。

○建設リーダー研修*(全4回)を1校で1～3回目、1校で1回目を実施しました。

*30人以上の建設リーダー参加の約束がSSB製作開始の条件。満たない場合に実施。

○9000個のSSB製作計画が承認された3校で覚書3*1を締結。SSB製作*2を開始。

*1 先行事業で覚書1と2を締結。

*2 1つの教室棟(2教室と2小部屋)に必要なSSB18,900個の約半数の9,000個を基本として製作計画を立てます。中間目標は4000個。

□4月

○第2回学校会議を3校で開催。

○建設リーダー研修は、1校で4回目を実施して完了。3校で実施中。

□5月

○3校では、建設リーダー研修の4回目を終了した時点で、先行事業の建設リーダーと終了した候補の合計が30人に満たなかったため、自主研修*で対応。

*評価が高い建設リーダーが手順書に基づいて説明して、当会スタッフが監督します。

○2校でSSB製作計画が承認されました。うち1校で覚書3を締結。

○中間目標は2校で完了、残る5000個を製作中。1校で進行中、1校で開始。

○SSB製作機の貸与を開始しました。

国内

2021年度年次総会をオンラインで開催しました

3月27日(土)、Zoomを使用しオンラインで2021年度年次総会を開催しました。一般会員51人のうち29人が出席—書面および電磁的方法による表決6人、表決委任12人—、定款が定める定足数「3分の1以上」を満たして成立。宇野由起信が推薦されて議長を務めました。マラウイでの活動は、代表

理事 永岡宏昌がパワーポイントの資料を画面で共有して説明。会計報告案のうちブランドタイヤ事務所会計は、6月に実施する監査前なので参考資料の位置づけとなることを事務局長 佐久間典子が断りました。審議の結果2020年度活動報告案・会計報告案、2021年度活動計画・予算案が承認されました。

フォト・レポート

SSB(土壌安定化レンガ)の作り方

宇野 由起信

セメントを土と砂に混ぜて、圧縮して作ります。燃料は一切、使用しません。



①土と砂をよく混ぜ、次にセメントを加え更に混ぜます。比率はセメント:(土+砂)=1:20。混合物の湿り気を確認し、必要であれば水を加えます。



②SSB製作機を準備します。レバーのパーツA(左奥)、次に厚い蓋のパーツB(右手前)を開きます。



③製作機の真ん中の型枠になった部分に、①の混合物をすり切りいっぱいに入れます。



④型枠部分をパーツBで蓋をし、パーツAのレバーを反対方向に倒し、2名がかりで下に押し込みます。



⑤パーツAのレバーを②の開いた状態まで戻し、パーツBの蓋を開けます。レバーを更に下に押すと型枠の底が上がり、成型されたSSBが出てきます。



⑥地面に一つずつ並べます。作成して2、3日経過すると10段まで積み上げても大丈夫になります。約3週間、毎日水をかけてセメントの硬化反応を促します。

事務局から

報告

◇組織

○3月13日、2021年度第1回理事会をZoomを利用したオンラインで開催。2021年度年次総会の議案について審議し、決定しました。

○3月27日、2021年度年次総会をZoomを利用したオンラインで開催しました(詳細はp.6参照)。

◇支援

○3月4日、公益財団法人 大阪コミュニティ財団から、「マラウイ共和国パロンベ県で教室建設に取り組む初等学校へのSSB製作機の貸与」(2021年4月～22年3月)への2021年度の助成決定の通知。財団に寄せられた「前田哲基金」によるもので金額は199,494円。

○3月8日、東京都家賃等支援金18,750円を受領しました。基準額(国の家賃支援金給付金の対象となった都内物件の家賃等の総額(月額))×給付率(1/12)×3か月分。

◇国内活動

○3月20日、報告会「マラウイでの教室建設事業」をZoomを利用したオンラインで開催。事業責任者を兼任する代表理事 永岡宏昌が、先行事業*1の成果を報告し、コロナ禍に対応する現行事業*2を紹介しました。

*1 外務省日本NGO連携無償資金協力「パロンベ県教育施設改善に関する保護者の参加意欲向上事業」: 2019年1月28日～20年3月31日

*2 同「パロンベ県初等学校保護者参加による教室建設事業 1年次」: 2021年2月10日～22年2月9日



写真はグーグル地図に入れた砂と土の採取場所。

■次号は9月に発行する予定です。

CanDo アフリカ [第94号]

2021年6月15日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室
電話: 03-3822-1041
電子メール: tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>
facebook: <http://www.facebook.com/candoafrica>
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会